

春シラスの漁況経過と秋シラスの見通し

(1) 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラスの漁模様は、不調と好調を繰り返し(図1)、7月下旬現在は好調に推移しています。春シラスの漁獲量は7/23時点の速報値で729トンとなり、前年(1,654トン)、過去5年平均(1,847トン)を下回っており、「中漁水準(330~1,640トン)」となっています。

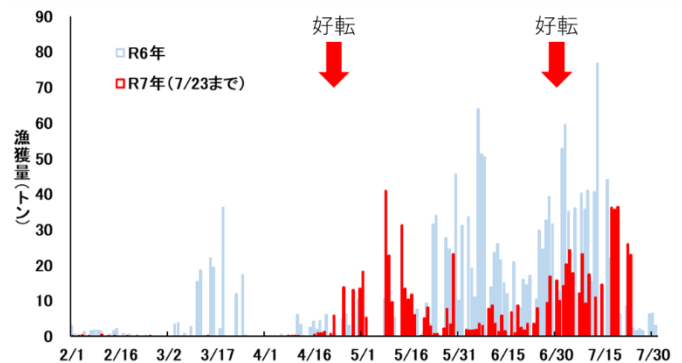


図1 R6・R7年シラス水揚げ量の日別推移

(2) 秋シラス(8~12月)の見通し

現在、黒潮続流の北偏傾向は弱まりながらも継続しており、黒潮続流から沿岸域に暖水が波及しやすい海況となっています。このことから、シラス漁場となる141°30'以西の沿岸域の水温は「やや高め~高め」(シラスにとって好適環境)で推移する見込みです(図2)。

県調査船いばらき丸の調査結果によると、今年のカタクチイワシ卵仔魚の個体数密度は、5月、6月、7月と直近5年を上回る水準で推移しており、新たなシラス資源の供給が続いています(図3)。

また、直近5年では、秋シラス漁獲量は8月・9月をピークに10月以降は減少する傾向にあります(図4)。水温やカタクチイワシ卵仔魚出現量などのデータを使って翌月のシラス漁獲量を予測する統計モデルでは、8月の漁獲量は350トン程度(同月の前年:195トン、直近5年平均:580トン)と予測されており、今年の秋シラス漁は、前年を上回り、直近5年平均を下回る水準でスタートする見込みです。

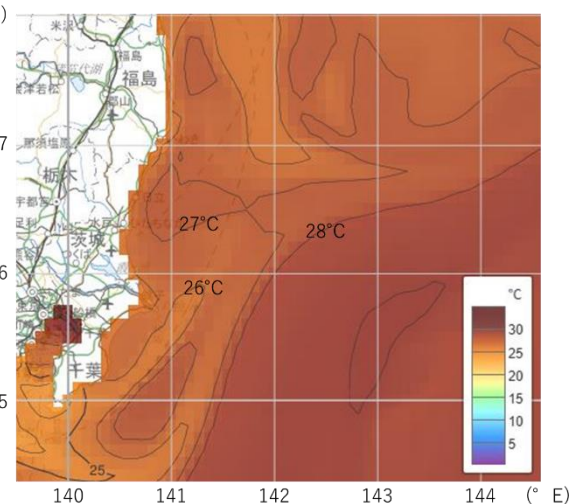


図2 8/20の予想海面水温図

※気象庁「海洋の健康診断表」を加工

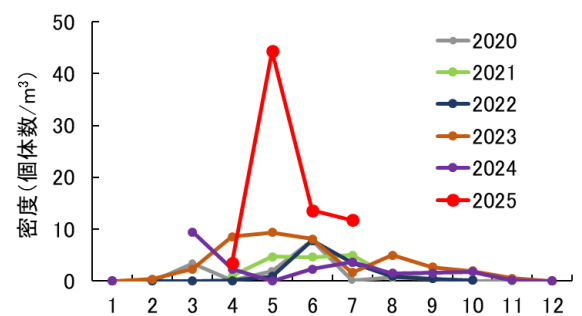


図3 月別カタクチイワシ卵仔魚個体数密度

(3) まとめ

以上から、今年の秋シラス(8~12月)の漁獲量は、不漁だった前年を上回り、「中漁水準」(1,340~2,090トン)となると予測します。

※水産試験場では毎月、統計モデルによる翌月のシラス漁獲量予測をホームページに掲載しています。月ごとの詳細な予測はこちらをご覧くださいと幸いです。

(URL: <https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/suishi/kaiyu/funabiki/funabiki-toppage.html>)

(回遊性資源部 長谷川 拓哉)

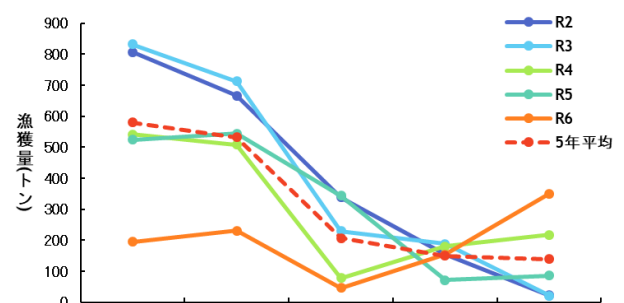


図4 過去5年間の秋シラスの月別漁獲量推移